



今週は寒い日が続きました。ようやく2月らしくなってきたように感じます。そんな中、子どもたちは朝から元気に園庭で遊んでいます。今はインフルエンザで休む子どももなくてほっとしています。このまま、子どもたちが元気で毎日を過ごしてくれることを願っています。

○ 豆まき会をしました。

3日(月)の午前、豆まき会をしました。

保育園部はそれぞれのクラスで実施しました。

幼稚園部は初めに2階ホールで全体会をしました。私から節分と豆まきについて話をし、次に全員で「鬼のパンツ」を元気に歌いました。最後に、職員がパネルシアターで豆まきに関するお話をし



ました。みんなで歌を歌うころから、なんとなくそわそわして、ホールの出口を気にする子どもが出てきました。今年の豆まき会をおぼえていたからでしょう。私が話の最後で「今年は優しい鬼さんに来てもらうようお願いしたからね」と伝えていましたが、やはり気になったようです。

パネルシアターが終わったら、ホールのドアがガラッと開いて、4匹の鬼(実はお母さん方)が入ってきました。子どもたちは一瞬ビクッとしましたが、落ち着いていました。4匹の鬼は「怒りんぼ鬼」「忘れんぼう鬼」「すききらい鬼」「泣き虫鬼」でした。鬼さんから話を聞いて、子どもたちは自分の心の中からこれらの4つの鬼を追い払いました。



その後、それぞれのクラスに戻って、予め作っておいた鬼のお面をかぶって、豆まきの準備をしました。すると、そこへ大きくて強そうな赤鬼と青鬼(実はお父さん)が入ってきました。顔は優しいお面の鬼だったのですが、驚いて怖がる子どももいましたが、ほとんどの子どもたちは、鬼めがけて豆をまくことができました。子どもたちの豆攻撃に鬼は負けて床に倒れてしまいましたが、子どもたちは許してあげました。鬼と一緒に記念撮影をして、笑顔で鬼とさよならをすることができました。

優しい鬼さん、子どもたちに楽しい思い出を作ってください、ありがとうございました。

豆まき会の様子については、本園ホームページの園長日記をご覧ください。

○ 感染症予防のマスクについて

本紙前号でも書きましたが、中国湖北省武漢市で発生した新型肺炎が想像以上のスピードで感染が拡大しています。日本国内でもすでに45人の人が感染しています。宮崎では今月1日からプロ野球のキャンプが始まり、日本各地から報道関係者やファンが集まっています。県も感染防止のための対策を講じ始めました。私たちも、自分を守るという意識を強くもって感染防止に努めなければならないと思います。

本園では、昨年末からインフルエンザ予防のために年少以上の子どもたちにはマスク着用を呼びかけています。多くの子どもたちがマスクをしています。そのマスクが町のドラッグストアなどから消えています。私もあちこちの店に行ってみましたが、いわゆる使い捨ての箱入りマスクが売り切れていました。

保護者からも、家にある子ども用のマスクがもう少ししかない、という話も聞きました。

私が得ている情報では、ウィルスの体内への侵入を防ぐ方法として「こまめに水を飲む」が効果的だということです。このことは本紙12月27日付けの号外4で書きました。その一部をここに再掲します。『インフルエンザのウィルスは、のどに付着して20分程度で体内に侵入してしまうそうです。ですから、帰宅してうがいをしても効果がないとか。しかし、こまめに水を飲むと、その水によってウィルスが胃に入って胃酸によって死滅するのだそうです。よく、お茶がいいとか聞きますが、水で十分だそうです。』
新型肺炎もインフルエンザと同様の予防策で大丈夫ということですので、万が一、マスクがなくなっても、こまめに水を少しずつ飲ませれば、予防効果が期待できるそうです。園でも職員から子どもたちにこまめに水を飲むよう声がけしていきますので、家庭でも同様の対応をしていただけたら、より予防効果が期待できるだろうと思います。

また、万が一感染した場合、マスク無しでも人に感染させないための手立てとして「咳エチケット」を心掛けましょう。

『咳やくしゃみをする場合は、ティッシュやハンカチで口や鼻を覆う。
上着の内側や袖で覆う。』

咳やくしゃみをする際に手で口や鼻を覆うのは、ウィルスが手について、その手でさわったものにウィルスが付着するので、よくないそうです。もしそうせざるを得ない場合は、すぐに手洗いをするようにしたいですね。



もし、感染の心配があったり発症したりした場合は、すぐに病院受診して、回復に努めましょう。

○ 靴がきつくなっていませんか？

先日、シューズを履こうとしている子どもを見かけました。シューズを履くのに苦労しているようでした。もしかしたら、と思って「シューズがきついのか？」と尋ねたら、そうだと答えました。

足の健康や靴選びについては、昨年度、本紙でも新聞記事を紹介しましたが、子どもの足の成長速度や靴のサイズの確認の仕方、靴選びについてのポイントを改めて紹介します。

<子どもの足の成長速度>

3歳までは1年に約2センチ、3歳を過ぎると1年に約1センチのペースで成長する。

靴のサイズは0.5センチ刻みなので、単純計算で3歳までは年4回、3歳を過ぎると年2回靴を買い換える必要がある。春から夏にかけて足が大きくなりやすいようで、時には1か月でサイズが大きくなることもある。

<靴のサイズの確認の仕方>

靴の中敷きを取り出して、床の上に置き、かかとの位置を中敷きに合わせて立たせる。つま先の部分に足の指の厚みにあったゆとりがあるか確認する。靴のサイズが15センチ未満では5～8ミリ、15センチ以上では1センチ程度。つま先のゆとりが5ミリを切っていたら、買い換えた方がよい。

<靴選び>

大きめの靴を履かせると、靴が脱げないように足の指に力が入りやすくなったり、靴の中で足が前にずれやすくなったりして、皮膚や爪のトラブルを起こす。足に合ったサイズの靴を選ぶことが大切。

※ お知らせ

今月3日(月)から、年中の子どもたちの保育補助に鈴木伸子先生に来ていただいていますので、お知らせします。鈴木先生は昨年度、午後の預かり保育をしていただいていたので、ご存じの方も多と思います。本年度もあと2か月ですが、年長への進級に向けて教育・保育の充実を図っていきます。